

シリーズ 人権・じんけん (91)



熱気のこもった研究協議が続いた分科会場

人権を大切にしたい職場・企業づくりを

第29回部落解放鳥取県研究会が、米子コンベンションセンターを中心として、8月17日から18日に開かれました。

第2日目の18日には、名和町保健福祉センターを会場にして、第5分科会「就労と職場の人権」が持たれました。「部落解放に向けて、就労と職場における人権の保障をどう確立していくか」をテーマに、町内外から約200人のみなさんが参加して、研究協議がおこなわれました。

3人の方から、高等学校での進路保

障・学力保障への取り組みや、企業における同和・人権問題研修推進の取り組みなどについて報告され、これを受けて研究協議がされました。

この中で、今後の職場や企業のあるべき姿について、報告や意見があったことを紹介します。

近年、企業や職場で正職員・正社員を減らし、嘱託職員や派遣社員などによって業務をおこなう傾向があります。また、子会社・関連会社による業務体制の増加など、働く人たちの就労条件や人権に配慮した職場環境に変化が起こりつつあります。

これからは、一層、人権を大切にしたい職場・企業などの確立と、人権感覚を基調とした製品・商品・サービスの提供などや、職場環境づくりに努める必要があります。そして、働く人・利用する人・使用する人たちに喜ばれる企業であり、職場となるような意識変革が求められていると語られています。

発掘現場から 28

鎌倉時代の有力者の屋敷跡？
門前上屋敷遺跡 鎌倉時代の集落跡

鳥取県教育文化財団埋蔵文化財センター
名和調査事務所

門前上屋敷遺跡は、名和川左岸の河岸段丘上に営まれた遺跡です。北は日本海、南は大山を望むことができる見晴らしのいい場所です。今年の4月から調査を開始し、8月で調査を終了しました。調査の結果、大溝と堀のようなもので整然と区画された、鎌倉時代（約700～800年前）の集落跡が見つかりました。

見つけた大溝は東西方向に延びており、長さ25m以上、最大幅約2.8m、最も深いところで約3mもある大規模なものです。大溝は今回調査した範囲外にも延びていくことがわかっており、かなり広い範囲を区画した溝であったと思われる。

また、大溝とほぼ直交するように（南北方向）直径約30cm程度の穴が並んで見つかりました。見つけた穴の列は一列のみであることから、建物跡ではなく柵や堀のようなものではないかと考えています。

遺跡からは、中国から輸入された器



柵または堀の跡



大溝

である青磁・白磁の破片も見つかっています。貴重品である青磁・白磁の器が見つかったことから、鎌倉時代の有力者が遺跡周辺に住んでいたことが考えられます。残念ながら、今回の調査では鎌倉時代の建物跡は見つかっていませんが、遺跡周辺に大溝と堀で囲まれた有力者の屋敷があった可能性が考えられます。大溝は外敵から身を守る防御施設だったのでしょうか？

なお未筆ですが、門前上屋敷遺跡周辺住民の方々には多大なご協力を頂きありがとうございました。引き続き他の遺跡の調査にご協力お願い致します。